

## 《女川原子力発電所2号機の安全対策工事完了時期の見直しについて》 ～これまでの目標「2018年度後半」から、さらに一定の期間を要する見込みです～

女川2号機につきましては、これまで、「2018年度後半」までの安全対策工事完了を目標に鋭意取り組んできましたが、新規制基準への適合性審査で得られた知見・評価などを適宜反映しながら設計や工事を進めていく必要があることなどから、さらに一定の期間を要すると判断しました。新たな安全対策工事の完了目標時期については、現在検討中であり、決まり次第皆さまにお知らせします。

女川2号機における新規制基準への適合性審査については、3月末現在で111回開催されています。

これまで、審査における当社からの一通りの説明を5月までに終了させる予定としていましたが、3月20日の審査会合において、この予定を7月までに見直しています。

また、防潮堤下部の地盤改良など、これまでの審査で得られた知見・評価を踏まえた、新たな追加対策も必要となっています。

これらを総合的に勘案した結果、安全対策工事の完了までに、さらに一定の期間を要すると判断したものです。

当社は、安全の確保と地域の皆さまからのご理解を前提に、早期の再稼働を目指して、引き続き、適合性審査への対応や安全対策工事に全力を尽くしてまいります。

## シリーズ 常に備える⑤ 《原子炉格納容器の水素爆発を防止するための「可搬型窒素ガス発生装置」を配備しました》

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故では、原子炉を冷やすことができなくなったことにより原子炉建屋で水素爆発が発生し、放射性物質が放出されました。

これを踏まえ、新規制基準では「水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するために必要な設備」の設置が求められています。

女川2号機では、この対策の一つとして「可搬型窒素ガス発生装置」を導入することとしており、3月30日に2台目の装置を津波の影響を受けない高台に配備しました。（昨年9月に1台配備済み）

万が一、原子炉内の燃料が破損し、原子炉格納容器内に水素が発生した場合、同装置から化学反応を起こしにくい窒素を供給することで、水素爆発を防止することができます。

女川2号機では、この他にも、原子炉建屋内に水素が漏えいした場合でも、水素を触媒により酸素と再結合させ、水素濃度の上昇を抑制する「静的触媒式水素再結合装置」の設置など、さまざまな水素爆発防止対策を講じることとしています。

可搬型窒素ガス発生装置は、空気中の窒素から余分なものを取り除き、高純度の窒素ガスを発生することができる設備です。

女川2号機では日々安全対策工事を進めています。

今後も安全最優先を徹底し、早期の再稼働に向け頑張っております。

保全部 原子炉グループ  
嵯峨 圭晟（岩手県出身）



## 《女川原子力PRセンター春休みイベント「おしごとEXPO 2018」を開催しました》

3月17日（土）～18日（日）、女川原子力PRセンターにおいて、子どもたちに人気のある「おしごと」を体験できる春休みイベント「おしごとEXPO 2018」を開催しました。

当日は、アナウンサーや美容師、ディスクジョッキー（DJ）といった、子どもたちに人気が高い3種類の「おしごと」を体験できるブースを設け、二日間で延べ150名の子どもたちに参加いただきました。

子どもたちは、プロの講師から、ニュース原稿の読み方やヘアアレンジの仕方等の指導を受けながらニュースキャスターやカリスマ美容師などになりきり、楽しく「おしごと」を体験しました。



アナウンサーブースの様子



美容師ブースの様子



DJブースの様子

## 《女川町復幸祭2018に参加しました》

3月25日（日）、女川駅前商業エリアにおいて「女川町復幸祭2018」（主催：女川町復幸祭実行委員会、共催：女川町）が開催されました。

当日は、同エリア内にある女川原子力発電所地域総合事務所1階の多目的スペースにおいて東北電力IH料理教室（参加者：28組81名）を開催し、「白身魚の香草揚げ」や「フライドポテト」、「いちごのカップケーキ」をご試食いただきました。

また、キッズコーナーでは、当社キャラクター「マカプゥ」の大型遊具「フワフワマカプゥ」を設置し、ご来場いただいた子どもたちに楽しんでいただきました。



「復幸祭」の様子



「IH料理教室」の様子



「キッズコーナー」の様子

## 《第16回東北電力図画コンクール作品展を開催しました》

3月19日（月）～3月25日（日）にかけ、女川原子力発電所地域総合事務所において、第16回東北電力図画コンクール「想像の海の生きものたち」の作品展を開催しました。

地域総合事務所での作品展の開催は今回が初めてでしたが、来場された多くの皆さまに、子どもたちが一生懸命描いた想像力あふれる“海の生きものたち”をお楽しみいただきました。

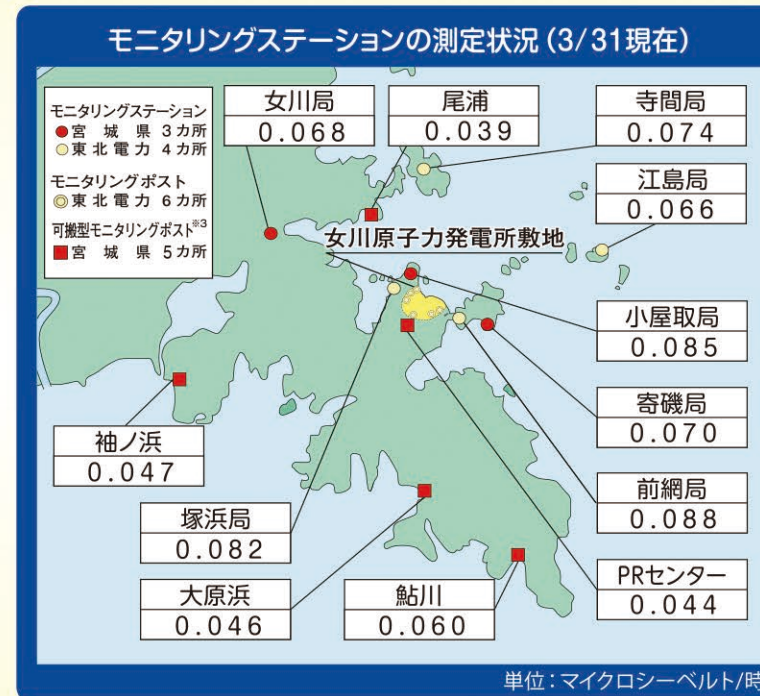
当発電所では、今後も「図画コンクール」を通じ、地域の未来を担う子どもたちの「想像力」と「考える力」を育み、個性や才能をのびのびと発揮できる環境づくりを応援してまいります。



## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト<sup>※1</sup>やモニタリングステーション<sup>※2</sup>で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.048マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	平成23年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	平成23年3月13日	1.8～21 <sup>※4</sup>
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	平成24年 4月1日	0.063～0.098
	平成25年 4月1日	0.055～0.076
	平成26年 4月1日	0.046～0.065
	平成27年 4月1日	0.043～0.077
	平成28年 4月1日	0.041～0.061
	平成29年 4月1日	0.038～0.059
	平成30年 3月1日	0.037～0.060
	平成30年 3月31日	0.037～0.048

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。